

平成28年度 三田市人権を考える会
志手原地域部会研修会

開催日時 平成28年11月13日(日)10時～12時

開催場所 志手原小学校 体育館

研修会次第

1. 開会 志手原小学校園 PTA 会長 小屋畑 ^{ひろき} 拓城
2. 会長あいさつ 三田市人権を考える会志手原地域部会会長 小池 ^{まもる} 葵
3. 来賓紹介 三田市議会議員 小杉 ^{たかひろ} 崇浩 様
三田市人権を考える会 副会長 井上 ^{つよし} 剛 様
三田市人権推進課 課長 都倉 ^{じゅんや} 純也 様
4. 来賓挨拶 井上 ^{つよし} 剛 様
5. 講演 (講師紹介) 「心の窓を少し開いて」
～好感、共感、親近感が人権力を育む～
明石 一朗 (あかし いちろう) 氏
6. 質疑応答
7. 謝辞 志手原校区老人クラブ連絡協議会会長 福西 ^{かつひろ} 勝弘
8. 閉会 志手原小学校、幼稚園校園長 北浦 ^{てつひろ} 哲博

【アンケート記入】

三田市人権を考える会志手原小学校区研修会

演題 「心の窓を少し開いて」

～好感、共感、親近感が人権力を育む～

あかしいちろう
講師 明石一朗 さん (関西外国語大学 教授 人権教育思想研究所長)

経 歴

1955年生まれ。

貝塚市立東小学校、二色小学校教諭。

大阪府同和教育研究協議会副研究部長・全国同和教育研究協議会事務局長。

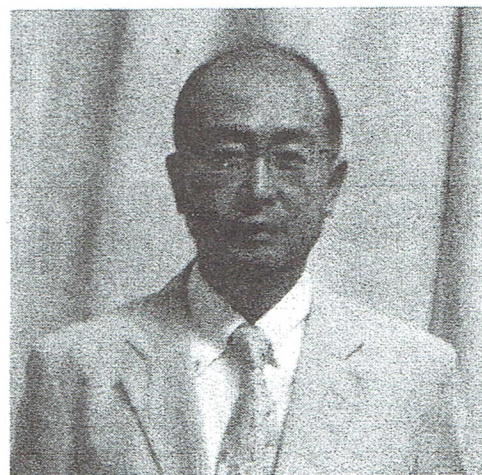
大阪府教育委員会指導主事・東京事務所課長補佐・主任指導主事・首席指導主事など

2009年 貝塚市立西小学校 校長

2011年 貝塚市立東小学校 校長

2014年 関西外国語大学 短期大学部教授

2015年 関西外国語大学 人権教育思想研究所長



母校である大阪府貝塚市立東小学校で教師となり、学校長で退職。現在、関西外国語大学教授として学生の教員養成等の指導に当たる。小学校現場から全国同和教育研究協議会・大阪府教育委員会・大学教育等を通じ、人権教育や道徳教育、PTA活動等に長年携わり、子どもの見方、接し方、褒め方、叱り方、心のつかみ方、学校・家庭や地域の教育力など、今日の子どもをめぐる教育課題について語る。

著 書

「教育 Do it!」-動詞で考える学級・学校づくりのヒント- (解放出版社 2015年)

「大阪の先生は元気です!」 (近畿出版印刷: 2013年)

「心の窓を少し拓いて」 (近畿出版印刷 2012年)

「子どもは毎日が旬」 (解放出版社 2009年)

(共著)

「大阪は教育をどう変えようとしているのか」 (明治図書、2005年)

「心の窓を少し開いて」

～好感、共感、親近感が人権力を育む～

関西外国語大学 教授

人権教育思想研究所長 明石一郎

(1) はじめに ～「人権」とは～

- ①「人権」とは、幸せの追求。^多人も「安全」・「安心」・「自由」であること
※人々の願いは、「無病息災」・「商売繁盛」・「家内安全」(「生命」・「豊かさ」「平和」)
- ②「3K」(暗い、キツイ、怖い)というネガティブイメージになってはいないか
- ③「人権」を否定するもの「差別」＝「暴力」「貧困」「無視」
※(無視・陰口・個人攻撃・暴力・殺人)→「人権侵害」の5段階 マズローの心理学
マザー・テレサの言葉
- ④差別を受ける者⇄する者(させる・見ている・気づかない・知らない)
- ⑤「好感」「共感」「親近感」が人権のキーワード
※「人はなぜ、マツコ・デラックスを見てしまうのか?」『テレビの秘密』佐藤智恵 著 新潮新書
「ちびまる子」さくらももこ 著

(2) 学校の教育力・家庭の教育力・地域の教育力

- ①学校の教育力とは、子どもの笑顔を増やし未来を保障すること
 - ・その日は朝から雨だった。(小学1年生の姿)
 - ・不登校のYちゃんのこと
 - ・なんで勉強しなければならないのか?
- ②家庭の教育力とは
 - ・ぐっすり、しっかり、すっきり(生活習慣の確立)
 - ・会食、会話、役割分担
- ③地域の教育力とは
 - ・「君、何年生になったんや?」朝のあいさつ運動で
 - ・2012年5月21日(月)午前7時28分

(3) 身近な人権問題から

- ①個人の責任に負えない「生まれ」「出身地」等で人の値打ちを決めつける＝人権侵害
- ②「ふるさと」「人種」「性別」「家柄」「仕事」「十二支」「血液型」・・・
※本人の努力や頑張りではどうしようもないことで人間の「値打ち」を決めつけることが「差別」
- ③同和問題の解決をめざす営みは、必然的に他の人権問題(在日外国人教育・特別支援教育・男女共生教育等)の解決をめざす課題と関連して発展してきた。
- ④身近な人権問題から
 - ・3・11東日本震災～「地震(現在)、津波(過去)、原発事故(未来)の破壊」
 - ・足の「不自由」なAさんの話 ・会社で嫌なことがあった日のお父さんの話
 - ・「豊浜トンネル落盤事故」(北海道) ・女性ドライバーの車線変更で

(4) 人権教育・啓発を進めるために

1、子どもの「嫌いなこと」

- ①「頭ごなしに怒られること」
- ②「何かにつけて他人と比較されること」
- ③「家庭が戦争的であること」

「子どもの人権が危ない！」

2、学校で「元気」な子ども

- ①目覚めは「自立」の素
 - ②朝ごはんは「金メダル」
 - ③うんこは「健康のパロメーター」
- 朝からあくび（慢性的睡眠不足）
○肩こり、近視等（運動不足、偏食、ストレス）
○心身の疲れ（体力・耐力・帯力の低下）
○依存傾向の強さ（過保護・過干渉・孤独）

3、子どもが元気になる言葉

- ①「あなたは、すばらしい」（一人の人格者として認める。常に希望を与える）
- ②「練習が足りなかったから失敗したかもしれない」（原因や背景を考える）
- ③「この絵、習字、上手やから壁にはとくよ」（努力や良さを励ます）
- ④「人は、それぞれやから」（個性の違いや多様性を認める）
- ⑤「さあ、どうしようか」（指示するより問うことで自立性を伸ばす）
- ⑥「まちがうな」より「まちがってもいいよ」（安心は、学びの必要条件）
- ⑦「～のくせに」「～らしく」より「あなた流で」（型にはめると心も体も固くなる）

(5) 最後に ～同和問題をはじめ差別解消の展望と見通しを！～

学校・家庭・地域ぐるみで人権意識と行動を確かなものにするために

- ①現実認識⇒生活の中にある人権侵害
- ②歴史認識⇒なぜ差別があるのか
- ③解放の展望⇒どうすれば、差別は無くなるのか

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">1、素敵な「出会い」と「ふれあい」を豊かに<ul style="list-style-type: none">・「北海道見どころ満喫3泊4日」の家族旅行・「USJは怖いところ？」2、くらしを通じて「人権」をわが身に引き寄せる<ul style="list-style-type: none">・秋のたんじり祭り・GACKT（ミュージシャン）氏のパリでの体験3、正しく学ぶ機会をもつ<ul style="list-style-type: none">・「わかる」ことは「かわる」こと・花がきれい。ウサギがかわいい |
|--|

(6) 最後の最後に

- ・ユーモアが「人権の心」を育む！